

沙流川

保護者向け校長通信

NO. 2

発行日

令和5年 5月 1日

「学校経営について」Part 2

前号で、今年度の重点目標について、ご説明いたしました。是非、重点目標を共有していただき、地域・家庭で「相手意識」をもった言動ができるようご協力をお願いします。今回は、重点的に育成を目指す「子ども像」「資質能力」「道徳性」についてご説明します。

子ども像

**主体的・意欲的に学習し、諦めず最後までやり通すことができる。
相手の気持ちや立場を考え、互いを認め合うことができる。**

このように設定したのは、年度末の反省会議において、子どもたちの様子から重点として、まず、どのような力をつけていかなければならないかを議論しました。その中で、子どもの様子から、どの学年においてもすぐに諦めてしまう子どもが多くいる実態が浮かび上がり、この、諦めてしまう気持ちや行動が成長を妨げていることを共有しました。また、この諦めてしまう気持ちはどこから生まれてくるのかを考えたとき、わからないことをわからないといえない人間関係にあることやできないことが恥ずかしいという思いが強くなるのが要因であると考えました。このようなことから諦めず最後までやり通すことや互いに認め合う関係を築くことで子どもを成長させることができると考えました。

資質・能力

**○表現し伝える力 ○基礎的な学習能力 ○情報活用能力
○よりよい生活や人間関係を目指す意識と態度**

道徳性

**◇希望と勇気 ◇努力と強い意志
◇親切、思いやり ◇相互理解・寛容**

先ほど示した「子ども像」に近づくためには、どのような資質・能力や道徳性が必要かを考えました。

自分の思いを伝えたり相手の考えを聞いたりしながら、みんながよりよい生活を送ろうという意識や態度を身につけることが必要です。そこで、その土台となる「心」を育むために、道徳の時間の中で重点的に扱う内容を示しています。このように、道徳性で培った心を土台にした教育活動を展開し、学校行事や学習時間、休み時間の遊びや係活動の場面など、様々な体験活動を通して、子ども一人一人が主人公となって成長することで、2点示した子ども像が達成されるように、職員の意識を一つにして、取り組んでいきますのでご支援ご協力をお願いいたします。